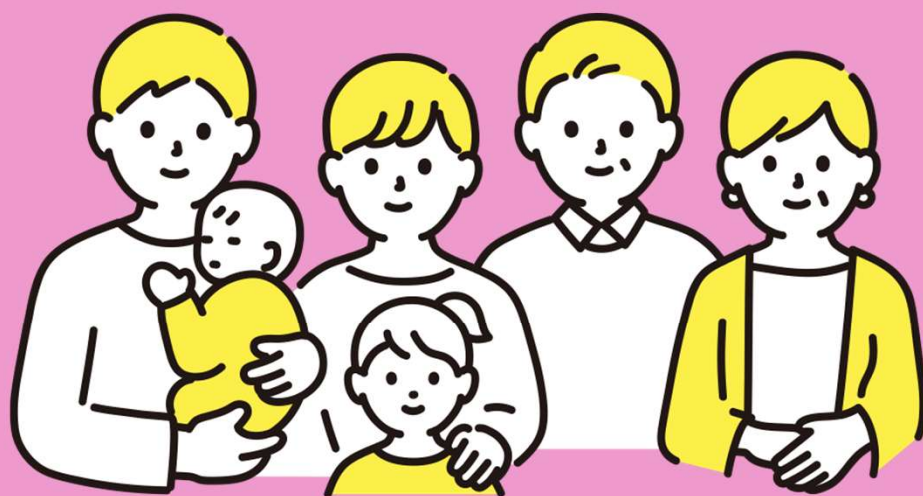


共 感 寄 付 (第 5 期) 助 成 事 業 活 動 報 告

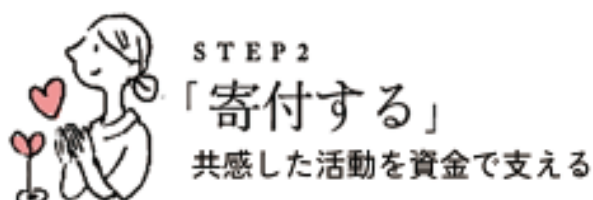
2022年度～2024年度

ご寄付を寄せて頂いたみなさんの思いが
各地の助成団体の活動となって
ひょうごのみなさんのもとへ届きました。



公益財団法人

ひょうごコミュニティ財団



あなたの共感が地域に広がり
しあわせな未来につながります。



共感寄付

目次

目次

共感寄付について：プログラムの説明	1
共感寄付第5期（2022年度～2024年度）助成団体一覧	2
共感寄付 助成事業活動報告（主に2024年度の活動報告）	
（特活）神戸の冬を支える会	3
音遊びの会	5
（一社）神戸みらい学習室	7
（特活）家族支援センター・クローバー	10
奥田純子基金	11
（特活）Seeds of Tomorrow	13
（特活）こどもサポートステーション・たねとしずく	15
（一社）デモクラティックスクールまっくろくろすけ	17
（特活）NGO 神戸外国人救援ネット	19

共感寄付について

1. 共感寄付の成り立ち

共感寄付とは、社会からの寄付に支えられて活動をしたいという想いを持った、地域の NPO・市民活動団体（以下、「参加団体」）の皆さまとひょうごコミュニティ財団とが一緒になって市民から寄付を募り、地域の課題に取り組む、寄付募集と助成のしくみです。

参加団体は、「地域でいま、何が課題か」「課題に対してどう取り組もうとしているか」を広く社会に訴え、その解決策（＝実施する事業）への支援（寄付）を当財団経由で募ります。

当財団はその活動をサポートし、集まった資金から運営費を除いた額を助成金として交付いたします。

寄付を広く募ることで、単にお金を得るだけでなく、地域の課題をみんなで共有し、参加団体の活動を支える気持ちのある「志金」（寄付）の循環をつくることを目指しています。

2. 対象となる事業

助成の対象となる事業は、次のものを除き、各団体で自由に設定できます。

○応募できない事業

- ・ 個人的な活動や趣味的なサークルなどの活動
- ・ 政治活動、宗教活動を主たる目的とする団体の活動
- ・ 反社会的勢力の支配下、またはその関係にある団体の活動
- ・ 許認可、認証および登録等を必要とする事業で、当該事業の許認可、認証、登録等を受けていないもの

現在の分野としては、「女性支援・男女共同参画」「子ども・若者」「人権・多様性」「高齢者・障がい者」「多文化共生・外国人支援」「芸術・文化・スポーツ」「まちづくり」「その他」があります。

3. 目標寄付金額

50 万円以上の寄付目標を設定します。目標金額の上限はありません。

4. 選考委員のみなさま（敬称略）

委員長	藤井 洋一	（株）神戸新聞社 論説副委員長/当財団理事
委員	関谷 善行	（株）日本政策金融公庫 神戸支店 神戸創業支援センター所長
委員	小谷 寛和	兵庫県県民生活部 次長（2025 年 3 月まで）
委員	北 茂正	兵庫県県民生活部 次長（2025 年 4 月より）

共感寄付第5期（2022年度～2024年度） 助成団体一覧

団体名および助成額

団体名	助成額（単位：円）			
	2022 年度	2023 年度	2024 年度	合計
(特活)神戸の冬を支える会	1,891,927	1,465,187	2,386,089	5,743,203
音遊びの会	13,600	79,475	76,500	169,575
(一社) 神戸みらい学習室	4,051,100	3,332,000	1,445,000	8,828,100
(特活)家族支援センター・クローバー	450,500	459,000	454,750	1,364,250
奥田純子基金	1,323,450	1,224,000	1,275,400	3,822,850
(特活)Seeds of Tomorrow		0	493,850	493,850
(特活)こどもサポートステーション・たねとしずく		106,947	22,100	129,047
(一社) デモクラティックスクール まっくろくろすけ			163,142	163,142
(特活) NGO 神戸外国人救援ネット			484,075	484,075
合計	7,730,577	6,666,609	6,316,831	20,714,017

※年度は当財団事業年度、2024年度は2024.7.1～第5期終了（2025.3.31、一部2025.7.31・2025.8.31）までを集計

(特活)神戸の冬を支える会

団体概要：

日本には、住居を失い野宿生活を余儀なくされている方（ホームレス状態の方々）やお金のある時だけ24時間営業の店に泊まる「ネットカフェ難民」といわれる方、住居と呼ぶには不適切な住居で暮らす方が多く存在します。住居を失う事情も様々で、失業や病気だけでなく、DV、児童虐待、不安定就労、服役など様々です。それらの方々が安定した生活基盤を整え、安心して生活できるように必要な支援を行っています。（2015年12月より参加）

事業名：ホームレス状態、安定した住居のない方（住む家のない方、生活困窮者）への支援活動

事業について

2024年は、毎週火・木・土の10時より神戸市小野浜公園にて炊き出し・相談活動を行い、月の第1・第2・第4日曜日の16時から足利市中央公園にて炊き出し・相談活動を行った。利用者は神戸では毎回平均約100人、足利では約35名であった。

また、2024年12月28日～2025年1月7日の間に神戸東遊園地と足利橋公園にて越冬活動を行い、炊き出し・生活相談・法律相談・医療等の提供を行った。越冬活動での利用者・参加者は延べ1617人で、炊き出し数も同数の1617食に至った。

尚、神戸の冬を支える会では、定期的に神戸市内・兵庫県域12町の生活困窮者を対象に相談支援活動を展開し、相談者の衣・食・住について支援をしているが、その食についての困窮者には数カ月に渡って食料支援を行ってきた。

事業の成果

コロナ禍以後、若年層の生活困窮者が増加し、生活困窮の多様化が見られる中、支援側の支援体制の充実も必要と思われる。炊き出しや相談体制をより充実し、生活困窮者を孤立させず、支援につなげていく必要を感じる。

事業の手ごたえ

限られた財源で2つの事務所と8名の職員を雇用して相談支援体制を整えていく困難を感じている。そのような中、特に炊き出しの食材や食料品配布など必要な現物を確保するという点で、寄付金とその拡充の必要性を強く感じている。来年も、今年同等以上の支援ができればいいと考えている。

今後の事業について

生活困窮者の増加と多様化に伴う支援活動の継続と体制の充実を図る。



音遊びの会

団体概要：

2005年結成、知的な障害のある人を含むアーティスト集団。知的障害のある人とその家族、音楽家、ダンサー、福祉従事者など60名を超える多彩なメンバーで活動しています。神戸をベースに月2日のワークショップの開催と、全国各地への遠征を含む年に数回の舞台公演が主な活動です。

自由な即興音楽を通じて、これからの音楽や福祉のあり方を模索し、多様な人が共に生きる社会の形を提案したいと考えています。（2014年11月より参加）

事業名：知的障害者とアーティストによる即興音楽プロジェクト

事業について

【ワークショップ】

定期ワークショップ 計19回

公開ワークショップ 計2回 「即興ワークショップ2024」

（10月20日 場所：Art Theater dB KOBE、11月16日 場所：兵庫津ミュージアム）

ワークショップ活動記録 Web ページ：<https://otoasobinokai.com/workshop>

【自主企画イベント・公演】

2024年9月16日 音遊びの会ドキュメンタリー映上会（トークライブ付） 場所：新開地アートひろば

2025年3月31日 「音遊びの会×大友良英」活動20周年記念企画 vol.1 場所：垂水区・旧グッゲンハイム邸

【その他イベント】

2024年4月27日 映画「音の行方」上映会 場所：台湾 台北市・温室

5月12日 「つながらーと2024」出演 場所：大阪・服部緑地

5月30日 「音の行方」上映会&森本アリトークイベント 場所：名古屋・名城大学

10月13日 県立兵庫津ミュージアム「兵庫津で踊る！」 場所：兵庫区・薬仙寺

10月19日 つむぐ学舎こづかやま laboratory 「おおすがさんとセクシーローズ展」

オープニングパーティー 小編成ライブ 場所：中央区・ローズガーデン

11月23日 「みんなの青空図書館3」参加 場所：兵庫区・御崎公園

2025年2月1日～16日 「音箱展」出品 場所：兵庫区・新開地アートひろば

3月22日 「音遊びの会×おとあつめ in 作業場」 場所：大阪・旧今宮小学校

【音源配信】 ワークショップ音源のウェブ配信 <https://otoasobinokai.bandcamp.com/>

事業の成果

- ・定期ワークショップは、会のメンバーに加えて、一般からの参加者を募って行った。また、感染対策のため開催を自粛していた公開ワークショップ（一般の参加者を主に対象にしたもの）を、地元、神戸では5年ぶりに実施。さまざまな背景をもつ人が音を介して交流する中で、互いの価値観を知り、自身の表現を探究したり他人の表現を享受することができた。
- ・自主企画によるイベント、および、依頼によって出演したイベントでは、多くの人にメンバーの表現を披露。ジャンルやスタイルなど、既存の音楽表現の枠組みを超えて、その時その場にいる人で如何様にも成り立つ新たな音楽の楽しみ方を提示する機会となった。また、それらが年齢、性別、障害の有無などあらゆる属性が混在したメンバーによって実現していることは、これからの社会のあり方の一つの提案になりうると考えている。

音遊びの会

【掲載メディアなど（参考）】

- ・NHK「ぐるっと関西おひるまえ」出演
 - ・毎日小学生新聞「パレット通信」記事掲載
<https://mainichi.jp/maisho/articles/20240929/kei/00s/00s/007000c>
 - ・一般社団法人メルディア広報誌「メルディア」vol.66 記事掲載
 - ・兵庫県子ども文化振興協会の広報誌「みらい」5月号 寄稿
- ほか、神戸新聞、J:コムチャンネル、ラジオ関西、音楽批評誌掲載など

事業の手ごたえ

2024年度は、寄付金を定期ワークショップ運営に必要な人件費、楽器の修繕、通信費に使用させていただきました。知的障害などさまざまな背景をもつメンバーから構成される団体を運営する上で必要な費用の全てを、メンバー自身の負担で賄うことは不可能です。社会から広く支援いただくことで、活動もまた社会へ開かれたものになってきています。また、共感寄付を通じて、地域のいち活動として会を知り、ワークショップの参加や舞台の鑑賞へ、更に一步近い関わりが生まれることも期待しています。

今後の事業について

2017年より活動に使用してきた兵庫区の拠点は、建物の老朽化により2025年3月末で退去。2024年度後期より行政・民間のさまざまな方の情報提供を受けながら移転先を探しましたが未だ確定せず、2025年度も引き続き移転先の物件の検討に取り組み、確定後は新拠点の環境整備の必要がある。主な活動予定は以下のとおり。

① ワークショップ 月2回の定期ワークショップ（一般参加可）、および年2回の公開ワークショップ

② イベント・その他活動 活動20周年記念の年として市内施設にてライブを自主企画、開催予定。また、7月、9月、11月には市内および県外にて依頼による出演を予定している。

③ 音源、作品などの公開 CD、DVD、書籍、Web配信など販売や音源の公開を通じて、地域や広く世界へ活動の周知に努めたい。



(一社)神戸みらい学習室（旧：神戸市職員有志）

団体概要：

「すべての子どもに、等しく教育の機会を」。

一般社団法人神戸みらい学習室は、経済事情や発達特性、不登校、DV、ヤングケアラーなど、様々な困難を抱える中高生を対象に、無料学習支援を行うボランティア団体です。

私たちの活動は、多くの社会貢献活動に取り組む個人や団体、企業の皆様からの温かいご支援、寄付によって支えられてきました。子どもたちの未来のために今後も学習支援活動を継続し充実させ、支援の輪を広げていきたいと考えています。

（2019年12月より参加）

**事業名：神戸市職員有志×地元大学生”が塾に通えない中高生に無料学習支援を行う
「神戸みらい学習室」を市内全域に拡大したい**

事業について

（1）学園都市校の運営（神戸市西区：西部拠点）平成29年8月開校（8年目）

- ①場所：神戸市外国語大学サテライト教室（市営地下鉄学園都市駅前）
- ②日時：毎週日曜日13時～17時（全50回）
- ③2024年度末時点の参加者数
 - ・受講生数 40名（3年13名、2年16名、1年3名、高校生8名）
 - ・講師数 33名（神戸市外大17名、神戸大3名、京大2名、兵庫県立大1名、他大学3名、社会人7名）
 - ・スタッフ数 8名（神戸市職員3名、社会人5名）
- ④進学実績 13名（公立一般5名、公立推薦5名、私立3名）

（2）住吉校の運営（神戸市東灘区：東部拠点）平成30年4月開校（7年目）

- ①場所：東灘区文化センター（JR住吉駅前）
- ②日時：毎週日曜日午後13時～17時（全50回）
- ③2024年度末時点の参加者数
 - ・受講生数 17名（3年6名、2年4名、1年2名、高校生5名）
 - ・講師数 10名（神戸大6名、大阪大1名、社会人3名）
 - ・スタッフ2名（兵庫県職員1名、社会人1名）
- ④進学実績 6名（公立推薦2名、私立3名、通信制1名）

事業の成果

神戸市職員が職務を通じて得た知識・経験・人脈を活かして、塾に通えない等の事情を抱えた中高生のために、地元大学生等とともに無料の学習支援を行う「神戸みらい学習室」を市内各地で運営するとともに、地域で活動する学習支援団体とネットワークを形成することをミッションとし、次の3つの取り組みを実施しました。また、本活動を7年間実施してきたことで、神戸市内ではありますがマッチングの重要性や夢ゼミを実施する地域団体が増えてきたのではないかと考えています。

2024年度も積極的に活動を行い、11月9日には全国の学習支援団体を対象に初めて神戸で全国シンポジウムを行いました。また、大学や企業との連携も進めることができたと思います。

①学習支援活動の質の向上と量の拡大

個別の学習支援を実施し、市職員を核とした学習支援モデル（副業含む）を広くアピールでき、より効率的かつ効果的な学習支援の運営の仕組み及び持続可能な事業の仕組みの実現に近づけました。

②夢ゼミの実施

毎月1回程度、中高生に対し、ボランティア講師の大学生や社会人等から、自身の大学生生活や就職活動そして勉強することの意義などを発表していただき、受講生へ学びの意義を伝え、自身の将来を考える機会を設けました。

③市内学習支援団体の連携を進め、学習支援活動の拡大・発展を図る 当団体が呼びかけ、2018年10月に市内の主要学習支援7団体からなる「神戸学習 支援協議会」を発足し、本年度の加盟団体は25団体まで拡大しました。

事業の手ごたえ

これまで、当団体の学習支援活動は、地域の皆様をはじめ、社会貢献活動を行う個人や団体、企業の皆様からのあたたかいご支援により支えられてきました。今後も活動を継続、拡大していくためには、助成やご寄付の支援が必要です。これからも私たちの活動をさらに多くの方に知っていただき、応援してくださる方にご支援をお願いし、様々な困難を抱える子どもたちの学習支援を安定させ、継続していきたいと考えています。

最後に、本年度寄せられた受講生や保護者の方からの感謝の言葉を一部抜粋し、お伝えすることで、当団体が感じている手応えを共有させていただきます。

- ・今まで勉強をサポートしてくれた皆さんありがとうございました。この神戸みらい学習室で様々なことを学び、経験しました。これらの学びや経験を活かし将来の自分へ活かしていこうと考えています。（中3男子）
- ・みらい学習室に行くようになって、わからない問題の説明を受けれるようになったのでいろいろな問題が解けるようになりました。また、いかなかったら出会えなかった先生（大学生の方）に出会えたり、高校の情報を教えてもらったりと勉強以外の面でもたくさんのことを学べました。（中3女子）
- ・親の事情で子供に塾に通わす事が出来ず、そういった事情も子供には言う事も出来ないまま月日が立ちました。私としては、両親以外、学校の先生以外の大人に接するいい機会だと思いました。勉強は、やらされてるから徐々に自分からやるという感じになっていったと思います。（中3男子保護者）
- ・大学生講師から高校や大学の具体的な話を聞けたこと、また夢ゼミで自分達にどんな未来があるか、その為に今どんなことが必要かを聞かせてもらえたのがよかったようです。今勉強することの意味を感じることができ、勉強に取り組みやすくなったようでした。（中3女子保護者）

「親の会」では、子育てや将来への不安を分かち合いながら、それぞれの家庭が少しずつ前に進んでいます。そこから若者の参加が生まれ、新しい役割を担う姿にも出会えました。

親の不安が和らぎ、笑顔が増えることで、子どもたちにも安心が広がります。皆さまのご寄付は、そんな家族全体を支える力となっています。今後とも、変わらぬ応援をどうぞよろしくお願いいたします。

今後の事業について

子どもの学習習慣を定着させるために最も大切な要因のひとつと考える講師と受講生の最適なマッチングを常時図っていくシステムを構築したいと考えています。学習支援団体にとって、この作業は多大な事務負担となるため、出席管理を兼ねるプログラムの開発に取り組み、安定的で継続的な子どもの学習支援の運営を構築することを目指します。

また、様々な困難を抱える子どもの学習支援では、その要因に保護者が大きく影響するだけでなく、保護者もその困難な状況に直面していることから、家庭での生活相談を含める支援を図ることが重要と考えています。今後は、事務作業の軽減を図りながら、子どもの生活環境の改善を含めた広義の学習支援活動に取り組みたいと考え、必要となる人材をより充実拡充したいと考えています。

神戸みらい学習室

そして、本年度は、学習支援シンポジウム全国大会を神戸市で開催するなど、市内だけでなく、全国の学習支援団体とのネットワーク化を図り、また、一部の大学や企業との連携も進めることができたと考えています。ただ、全国の企業との連携については想定より遅れており、次年度の課題と考えています。今後は、次年度以降、受講生と講師の最適マッチングを図るアプリ開発の精度を上げ、全国展開に向けて改良を行うとともに、全国規模のシンポジウムを引き続き神戸で開催し、地域型学習支援が、全国に広がっていくよう全力で取り組みたいと思います。



(特活)家族支援センター・クローバー

団体概要：

両親の離婚によって、今まで愛情を受け続けられていた親から突然、愛情が受けられなくなるお子さんたちがたくさんいます。離れて暮らすことになった親からの愛情を少しでもお子さんに届けるための制度が面会交流です。

当団体では、弁護士及び家庭裁判所の家事調停委員が中心となって支援しています。家庭内の法的紛争を取り扱うプロとして、当事者からじっくりとお話を聞き、お子さんにとって、よりよい面会ができるように力を尽くしています。（2022年10月より参加）

事業名：こどもに両親の愛を届けるお手伝い

事業について

（令和6年4月～令和7年3月までの面会交流支実施内容）

4月 7 13 14 20 21 27	9組の父子また母子が屋内、公園等で遊具を利用して遊んだ。
5月 11 12 19 25 26	10組の父子また母子が屋内、公園等で遊具を利用して遊んだ。
6月 2 8 15 16 22 23 29 30	11組の父子また母子が屋内、公園等で遊具を利用して遊んだ。
7月 6 13 14 20 21 28	8組の父子また母子が屋内、公園等で遊具を利用して遊んだ。
8月 4 17 18 24 25	9組の父子また母子が屋内、公園等で遊具を利用して遊んだ。
9月 8 14 16 21 22 29	9組の父子また母子が屋内、公園等で遊具を利用して遊んだ。
10月 6 12 19 20 26	5組の父子が屋内、公園等で遊具を利用して遊んだ。
11月 3 16 17 23	7組の父子が屋内、公園等で遊具を利用して遊んだ。
12月 1 8 14 15 21 22	10組の父子が屋内、公園等で遊具を利用して遊んだ。
1月 12 13 18 19 26	8組の父子が屋内、公園等で遊具を利用して遊んだ。
2月 9 15 16 24	8組の父子が屋内、公園等で遊具を利用して遊んだ。
3月 8 16 22 23 29	8組の父子が屋内、公園等で遊具を利用して遊んだ。

事業の成果

当事者間の感情的対立が激しく、当事者だけでは面会交流の実施が困難な複数のケースにつき、本事業によって、円滑な面会をサポートすることが出来た。

西播磨地域において、当法人以外に同種の事業を行っている団体は存在せず、全国的に見ても、弁護士、調停委員の数十名で支援する団体は、当法人のみである。当法人の存在がなければ面会が実現しなかったと思われるケースも数多くあり、本事業の社会的意義は非常に大きいものと自負している。

事業の手ごたえ

休日返上で支援に当たっているスタッフに対し、適正な日当の支払をすることが、本事業の継続のためには不可欠である。寄付金をいただいたことで、スタッフのモチベーションが上がり、研修や新たな支援方法の導入の検討など、事業推進の意欲も高まっている。

今後の事業について

大阪で同種事業を行っている団体の活動を参考に、面会交流に適切な場所（広いスペースなど）を借りて、複数の親子をグループで支援する方法の導入を検討している。いただいた寄付金は、その賃貸料などに充て、より充実且つ安定した支援を行っていきたい。

奥田純子基金

団体概要：

日本で学ぶ30万人の留学生の三分の一は、日本語学校で学んでいます。

夢を抱いて来日し日本社会の今と未来を支える大切な仲間である留学生を応援しませんか？

奥田純子ゆめ基金は、「ゆめ作文」を通じて留学生に10万円の奨学金を支給しています。（2023年2月より参加）

事業名：奥田純子ゆめ基金

事業について

日本語学校で学ぶ留学生のための奨学金給付事業を実施中。奨学金受給者決定のための「ゆめ作文」募集を以下の日程で行い、6名の審査員によって審査を実施、初年度（2023年）10名、2年目（2024年）は16名の留学生に、一人当たり10万円の奨学金（一次給付型奨学金、返還なし）を支給した。

2023年	4月20日	「ゆめ作文」広報開始、初年度寄附金募集開始
	5月8日～7月10日	「ゆめ作文」募集期間
	9月24日	「ゆめ作文」オンライン最終選考会
	10月中旬	受賞者10名に奨学金支給（振り込み）
2024年	3月上旬	受賞者の追跡レポートHP掲載
2024年	5月17日	「ゆめ作文」広報開始、初年度寄附金募集開始
	6月17日～7月26日	「ゆめ作文」募集期間
	9月28日	「ゆめ作文」オンライン最終選考会
	10月中旬	入賞の16名に奨学金支給（振り込み）
2025年	3月上旬	受賞者の追跡レポートHP掲載

事業の成果

この事業に通算で450万円を超える寄附が集まり、協賛団体も16団体を数え、募集継続中である。また、奨学金受給者決定のための「ゆめ作文」募集に対して、第1回には全国約50校の日本語学校、世界28の国と地域から175件の応募があった（第2回は一校当たりの応募数を絞ったため、149件と数は減ったが質の高い作品が集まった）。多くの学校が学生への呼びかけや授業での取り組みに協力してくれ、学生が自分自身と将来のことを深く考え、日本語で表現するまたとなない機会となったと肯定的な声が寄せられている。

事業の手ごたえ

初年度から2年の活動実績を重ねて、今年は3年目を迎え、留学生や日本語学校の間で一定の認知を得て、留学生が勉学の励みとするイベントに育ちつつある手ごたえを得た。各地の日本語学校の校長・主任から、これまで応募できていなかったが、次年度はぜひ応募したいという声も寄せられている。

協賛団体も16を数え、当基金の趣旨に賛同する個人や企業の名前を冠した冠奨学金創設の申し出も、初年度4名分、2年目には11名分と順調に増え、さらに3年目となる2025年分は現時点で既に21名分の申し出がある。そのほか、ホームページやML等で広報に協力してくれる出版社（アルク）や、DMの発送に協力してくれる広告会社（さんぽう）も現れた。

奥田純子さんをはじめ、日本語学校黎明期に活躍した9名のキーパーソンのインタビュー集『日本語学校物語——開拓者たちのライフストーリー』（ココ出版）も刊行され、出版社による関連イベントも追い風となっている。

今後の事業について

引き続き、以下のスケジュールで、事業を継続予定である。

2025年 5月中旬	「ゆめ作文」広報開始
6月中旬～7月下旬	「ゆめ作文」募集期間
8月上旬～9月中旬	「ゆめ作文」審査期間
9月下旬	「ゆめ作文」オンライン最終選考会
10月上旬	奥田純子ゆめ基金 奨学金授与式
10月中旬	受賞者21名に奨学金を支給（振り込み）
2026年 3月上旬	受賞者の追跡レポートHP掲載

今後はホームページ、メーリングリスト、チラシ配布などを通じて、さらに「顔の見える支援」を目指し、支援者と留学生をつなぎ、支援の輪を広げたい。



(特活)Seeds of Tomorrow (旧：全国夜間中学ネット)

団体概要：

未来を担う子どもたちのために、皆様の力を貸してください！

私たちは、すべての子どもたちが平等に学ぶ機会を得られるよう、無料の学習支援を提供しています。しかし、この活動を継続し、さらに多くの子どもたちに手を差し伸べるためには、皆様のご支援が必要です。皆様のご寄付は、教材の購入や学習環境の整備に役立ちます。(2023年12月より参加)

事業名：学習の機会に恵まれない子供たちの夢をかなえたい

事業について

対象：経済的理由または保護者の事情により学習の機会に恵まれない中学生と身体的理由などにより登校できない中学生。1日当たり40名。

取り組み：

- ① 無料の学習支援、週3回 17時から20時 英語と数学を中心に学校の授業の補完と高校受験対策。年間120日実施。年間延べ受益者数4800人。
- ② 保護者対象の生活支援相談、学習支援相談 保護者40人対象 年3回
- ③ 地域他団体との交流会 学習支援についての情報交換会
- ④ 教育委員会との連携 不登校生の学習状況報告及び出席認定

実施地域：神戸市東灘区と長田区

期間：毎年度4月～3月

事業の成果

- ① 学力向上
学力テストの成績が改善され、進路選択において高等教育への進学率が高まった。
- ② 非認知能力の向上
自己効力感や自尊感情、自己管理能力、協調性などの非認知能力が高まった。
- ③ ソーシャルスキルの獲得
ボランティアや教員、仲間とのコミュニケーションや関係構築のスキルを獲得できた。
- ④ 生活習慣・育成環境の改善
食事や睡眠、運動などの生活習慣が改善され、家庭や学校、地域と連携が強化された。
- ⑤ 再処分率の低下
非行や虐待などの再処分率の低下に貢献できた。

以上のように、学習支援事業は、子どもたちの学習だけでなく、生活や人間関係にも多大な影響を与えている。学習支援事業は、子どもたちの将来にとって重要な役割を果たしている

事業の手ごたえ

目標金が気には届かなかったが、篤志家の方からのご支援をいただき感激しました。収益事業がなく進めてまいりましたこの事業に対し、高い志やノブレスオブリージュを感じ、一層子供たちへの支援の意志を強くしたところです。事業の成果のところでも述べましたが、基本は、学力をつけること、その活動を通じて個人の様々な資質向上につながることで、そして地域社会に対しては再処分率の低下に貢献できたのではないかと考えています。

今後の事業について

本事業は、福祉と教育のはざまの活動であり、行政との結びつきもむづかしい面がありますが、ご寄付賜りました方々の熱い志に襟を正し今後も本活動を継続発展させていく展望を持っています。

現在、東灘で1か所、長田で2か所、計3か所で学習支援を実施していますが、5年目に入る本法人の活動を広く周知し充実したものになるよう今年度も継続して取り組みます。



(特活)こどもサポートステーション・たねとしずく

団体概要：

たねとしずくは、ひとり親家庭への訪問支援や食料提供から活動をスタートした団体です。その中で、大人の抱える貧困、暴力、孤立などの困難は、そのまま子どもたちに引き継がれていくことが見えてきました。子どもたちが生まれ育った環境に左右されずに安心して過ごしてほしい。そんな思いで、0歳から10代の子どもたちの居場所「たねとしずくライブラリー」を始めました。目の前の子どもにとっての最善を考え、その子自身が自分の人生を選んでいくことを目指して関わっています。（2023年12月より参加）

事業名：「自分の人生は自分で選ぼう」つながり続ける伴走支援の基盤整備

事業について

1.広報活動

当団体の活動を広報し、認知度を上げ、当団体の理念に共感するスタッフやボランティアと出会うことを目指しました。

（1）プレスリリースの発行

- ①2024年5月31日 「トライやるウィーク」
- ②2024年7月3日 「学習支援スタート」
- ③2024年7月19日 「たねとしずくライブラリー内覧会開催」
- ④2024年10月28日 「たねとしずく中間報告」

（2）activo に当団体のページを開設

2024年6月に当団体のページを開設し、主に大学生・専門学生のボランティアを募集しました。

2.ファンドレイジング活動

当団体の活動基盤を強化するため、ファンドレイジングを行いました。

（1）ブックトークの開催

（2）新規マンスリーサポーター募集キャンペーンの開催

3.バックオフィス人員の拡充

2024年4月より1名、バックオフィス人材の雇用を開始（週1日程度）



学生ボランティアとインターン



マンスリーサポーターキャンペーンチラシ

事業の成果

1.広報活動

- 1 プレスリリースを通じて、各種報道機関からの取材もあり、5件のメディア掲載がありました。
- 2 activoを通じて、8件の問い合わせ、事業説明を行いました。その後、プロボノ1名、2名のボランティア登録がありました。

2.ファンドレイジング活動

2024年12月に開催した新規マンスリーサポーター募集キャンペーンにより22名の方に、マンスリーサポーターとしてご登録いただきました。これにより、マンスリーサポーターは68名から90名となりました。これらの活動により、たねとしくの理念に共感いただき、ボランティアやマンスリーサポーターとして、たねとしくを支えてくださる方が今年度、37名増えました。

当団体では、広報に力を入れ、プレスリリースをはじめ、Instagram、フェイスブック、自社ホームページで事業案内・報告を行ってきました。また、人材を募集し、プロボノなどの協力者を得ることができたおかげで、マンスリーサポーターキャンペーンを目標に近づけることができました。それらの成果は、寄付者のみならず、市内で活動している団体やユースセンターを行っている団体にも評価をされ、意見を求められることが増えてきました。当団体がこども支援の牽引者としての役割を担いたいと思って活動をしておりませんが、その一歩が踏み出せたと感じています。

事業の手ごたえ

主に助成金を活用して活動を行っていますが、バックオフィスにかかる経費を賄えない場合もあります。特にファンドレイジングや人事に助成金を活用できませんが、基盤整備には欠かせない事業になります。寄付をいただくことで、バックオフィスにおける活動を柔軟に行うことができました。おかげで、広報が広がり、支援者を増やすことにつながりました。

今後の事業について

広報やファンドレイジング、会計のバックオフィスの基盤整備のために、スタッフやプロボノを安定的継続的に雇用していきたいです。財源の見通しがつかないなかで人材育成など成果がすぐに出ない部分には、お金をかけることがなかなかできない現状ですが、そこを打破すべく寄付の割合を増やしていきたいと思っています。立ち上げメンバー以外の後輩を育て、安心して働いてもらえる環境を作り、活動を安定させていきたいです。

(一社)デモクラティックスクールまっくろくろすけ

団体概要：

「自分のことには自分で責任をもつ、全体のことにはみんなで責任をもつ」という理念のもと、神崎郡市川町にて子どもたちが主体となり自由な学びと自治を行うデモクラティックスクールです。スクールには築50年の母屋と倉庫があります。倉庫をリノベーションして子どもたちの活動スペースとして使えるようにします。不足している設備を整えて、よりたくさん子どもたちが学べる環境をつくります。（2024年7月参加）

事業名：トイレが足りない！

～日本初のデモクラティックスクールで学ぶ子どもたち 史上最大の挑戦～

事業について

2024年2月	子どもたちの声より事業計画スタート 3人の子どもたちが実行委員となる
2024年4月	事業実施スタート 学校内で臨時総会を開き、保護者・スタッフ・メンバーから承認を得る
2024年7月	第5期共感寄付応募
2024年8月～10月	子どもたちによる倉庫の片付けと解体、柱のやすりがけ、みつろう塗り
2024年10月～2025年2月	リフォーム会社による改装工事
2025年1月～3月	クラウドファンディング 子どもたちによる照明器具取付、テーブル製作
2025年3月23日	新校舎完成パーティー
2025年4月	新校舎の整理、壁のペンキ塗り、荷物の移動
2025年5月	本格使用開始

事業の成果

以前は古いトイレがひとつしかなく、30人以上が過ごす場所では順番待ちが発生することが多々ありました。幼い子や新入生にとっては古いトイレに不安がある子もいました。リノベーションによって新しいきれいなトイレができてからは、みんなが安心して使うことができるようになりました。トイレの壁紙も実行委員の子どもたちが選んで明るい雰囲気になっています。見学に来られるお子さんたちも新しいトイレをみて安心されています。

また以前の倉庫は暗くて埃っぽく物置やごみ置き場になっており、活動スペースとして使えるものの子どもたちは2階のみを使っていました。リノベーションしてからは、音楽室、フリースペース、勉強部屋が新たにできて、以前より多くの子どもたちが使うようになり、受け入れられる子どもの数も増えました。

地域で音楽活動をしている方が音楽室を利用されたり、全国デモクラティックスクールスタッフの研修会の会場として使用し宿泊してもらうこともできました。

事業の手ごたえ

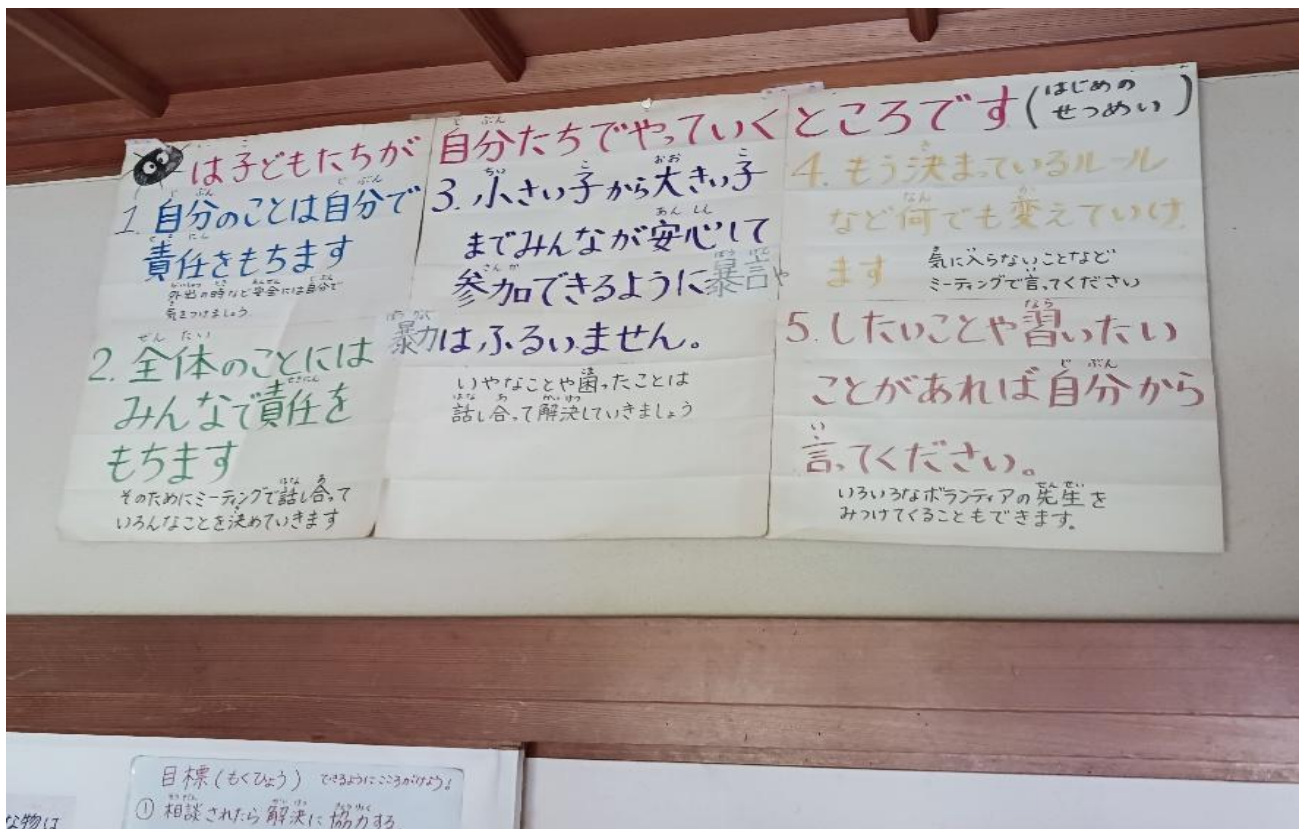
共感寄付を通してスクールのことを知っていただけたたり、応援していただけたたりすることを嬉しく感じました。これまで基本的には自己資金でさまざまな事業を実施してきましたが、ご寄付でいただいたお金で事業を行うことで、改めてたくさんの方に支えられていることへの感謝が深まりました。

今後の事業について

活動スペースとして使えるようにはなりましたが、太陽光パネルとエアコンの設置がまだ残っているため、第6期の共感寄付も継続させていただくことになりました。来年3月までに完了を予定しています。共感寄付を通して事業を支援していただくとともに、スクールのことも知って応援していただけるように広報に力を入れていきたいです。

トイレが整備され新しくきれいな活動場所ができて通いやすい環境が整いました。このような学びの場を必要とされる子どもたちやご家族にたくさん見学に来ていただきたいです。また地域の方々にも貸出するなど、交流を深めるきっかけにしていきたいです。

デモクラティックスクールまっくろくろすけ



(特活)NGO 神戸外国人救援ネット

団体概要：

NGO 神戸外国人救援ネットは、阪神・淡路大震災をきっかけに、神戸で在日外国人の人権問題に取り組んでいた NGO や個人が集まり生まれたネットワークです。

日本社会で暮らす外国人が増加する中、外国人の人権と生活を保障し、多様な人々が共に暮らせる社会の実現を目指して、在留資格、労働問題、社会保障、教育、DV 問題などあらゆる外国人の相談を受け、必要に応じて関係機関などへ通訳を含む同行支援活動を行い、問題解決のサポートを行っています。（2015 年 12 月から 3 度にわたって参加）

事業名：言葉と制度の壁を越えて。困難を抱える外国人の相談・支援活動

事業について

1. 外国人の人権擁護のための多言語で行う相談・支援事業（多言語生活相談ホットライン）

団体として電話、来所での多言語生活相談に対応

2024 年 9 月 1 日～2025 年 8 月 31 日 毎週金曜日 13：00～20：00 (全 52 回)

新規相談件数：187 件

性別： 男性 58 人、女性 138 人 （合計 190 人 ※男女ペアで相談に来ている場合あり）

言語： 日本語 67 件、タガログ語 62 件、英語 21 件、スペイン語 19 件、ポルトガル語 10 件、中国語 3 件、ベトナム語 2 件、タイ語 2 件、アラビア語 1 件

国籍： フィリピン 67 件、日本 38 件、ペルー14 件、ブラジル 11 件、中国 8 件、シリア 6 件、ナイジェリア 5 件、ベトナム 4 件、ウガンダ 3 件、ネパール 3 件、アフガニスタン、アメリカ、タイ、台湾、コロンビア、ボリビア、ミャンマー、ルーマニア・・・2 件ずつ
スペイン、ウクライナ、ラトビア、モルドバ、モロッコ、リビア、エジプト、インド、パキスタン、バングラディシュ、イラン、ニュージーランド、イギリス・・・1 件ずつ

相談内容： 出入国 53 件、家族関係 36 件、暮らし 35 件、住居 26 件、医療 20 件、社会保障 18 件、教育 14 件、労働 9 件、日本語学習 3 件、運転免許 3 件、就職 2 件、国籍 2 件、交通事故 1 件、ビジネス 1 件、その他 9 件（計 232 件）

2. 広報活動

- ・チラシ配布 3000 枚： ニュースレター同封、他団体への送付、手配り
- ・Facebook 投稿： Facebook ページに週 1 回委員と通訳者によるリレートークを投稿（全 18 回）
- ・インタビュー・PR 活動： ひょうごコミュニティ財団や YouTube チャンネルでのインタビュー。会議、セミナーなど会合で当団体の活動と寄付活動について PR。

事業の成果

本事業を通じて、日本に暮らす外国人が直面する課題解決に貢献できたと感じています。特に、公的支援が不足しがちな分野において、通訳同行支援を継続できたことは大きな成果です。

近年増加している在留外国人は、言葉の壁や文化の違いから、孤立し、必要な情報や支援にたどり着けないことが少なくありません。救援ネットが外国人の「最後の砦」となり、一人ひとりの困難に寄り添い、行政や医療機関との橋渡し役を担うことで、彼らの孤立を防ぎ、地域社会に溶け込んで生活していくための手助けができていると考えています。

事業の手ごたえ

近年、相談者の国籍が多様化し、通訳者の確保が難しいケースや、相談対応が長期化するケースが増えています。DV被害に遭われた女性とその子どもたち、仮放免中の難民申請者、病気で生活が困窮した方々など、多くの方が深刻な問題を抱え、支援を必要としています。

このような課題に対し、皆様からの寄付金を通訳費用に充当できるようになったことは、私たちにとって大きな助けになっています。財政的に依然として厳しい状況ではありますが、皆様の温かいご支援のおかげで、私たちは相談対応を継続できています。

今後の事業について

5期は817,500円（※）もの温かいご寄付をいただきました。目標金額の200万円には及びませんでしたが、多くのご寄付により、通訳同行支援に関する費用の一部を賄うことができ、通訳コーディネーター料にも当てさせていただきました。多くの在住外国人の支援につながりました。心より感謝申し上げます。

現在、救援ネットは公的な助成金、補助金の減少により、ますます財政的に厳しい状況にあります。一方、支援が必要な在住外国人は増加し続けています。

2024年12月末現在、兵庫県の在住外国人数は142,676人で、1年前から約1万1千人増加し、過去最多を更新しました。国籍別では、ベトナム、中国、韓国、ネパール、フィリピン、インドネシア、ミャンマーの順となっています。全国の在住外国人数は2024年末に376万9千人となり、3年連続で過去最多を更新しています。外国人住民の増加が見込まれる中、より良い相談体制を構築するため、通訳者の確保は不可欠です。

今後も一人でも多くの在住外国人を支援できるよう、皆様のご協力のもと、継続的に寄付金を募ってまいります。

（※）事務局注：2021年度分を含む金額のため、P2の一覧と数字が違います





共感寄付（第 5 期 2022 年度～2024 年度）
助成事業活動報告

2025 年 10 月 1 日発行

〒650-0022 神戸市中央区元町通 6-7-9 秋毎ビル 3 階

電話：078-380-3400 FAX：078-367-3337

hyogo@communityfund.jp

<https://hyogo.communityfund.jp/>